

平成27年度 学校関係者評価書

宮崎市立広瀬小学校

学校経営ビジョン 『みやさきっ子』の育成を目指し、学校や地域の特性を活かして、児童一人一人を大切に教育活動を展開し、子どもたちが夢や希望を抱きながら、意欲的に活動する学校を創造する。 <2年次> チームワーク・チームプレイ・チームティーチング “TEAM広瀬”で子どもを伸ばそう!! 子どもを変えよう!!

4段階評価(4 期待以上 3 ほほ期待通り 2 やや期待を下回る 1 改善を要する)

重点目標	手段・ゴールイメージ(具体的に)	自己評価	結果の考察と改善の方策	評価	学校関係者評価委員評価コメント
(1) 学力の向上=教師の授業力アップ(学び合う授業一人一授業以上)	① 小中一貫教育推進を通して、問題解決的な学習やICT活用、アセスメントシート活用での特性把握、UD授業や、話し合い活動の充実など指導方法の工夫改善に努め、児童・保護者の「分かる授業」の評価率を90%とする。	3	・「分かる授業」については、主題研究の中で、ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業を行い、授業の流れや板書の工夫を行い、できるだけ問題解決的な学習を進めている。アセスメントも全学年実施し、特性の把握を行った。 また、児童アンケートでは、授業に進んで取り組んでいるという回答は95%となった。さらに全学級での授業研究の実施など、指導法の工夫改善を図って	3	・少人数指導の効果は生かされているのはよいこと。また、児童の満足度が高いことは評価できる。 ・UDを生かした指導法の工夫改善を期待したい。 ・授業における「導入」の段階、まどめの段階における定着度の確認の工夫はなされているかを常に考え、「わかる、できる」を実感させていきたい。
	② 算数における基礎学力の定着を図るため、算数Web学習評価システムの積極的な活用を行い、採点、振り返りを行う。(全校での実施率95%以上の利用)	3	・全学級で活用されている。全校での実施率100%となる。しかし、学年により利用頻度の差がみられるため、担当者を通して、効果的な活用方法の研修を行い、活用の推進を図る。	3	・インターネットの教育番組(NHK for School等)の活用で、興味・関心を高めるのもよい。 ・Web等利用の差が気になるが、利用が定着してきたのはいいことである。 ・学習評価システムの利用について、全体や学年間の情報交換を行い、より充実した活用を図ってほしい。
	③ 個に応じた指導、算数少人数指導などを組み合わせ、きめ細やかな学習指導を心掛け、国語、算数の単元テストで平均83点以上となる。	3	・単元テストの平均は、国語85.8、算数は85.7、社会82.2、理科85.0であった。テスト結果を分析考察しながら個別指導の充実を図っていた。 しかし、全国学力調査やみやさき学力調査は、県平均を下回る結果が出たため、間違えの多い問題についての分析、考察、傾向について職員会で共通理解を図り、活用に関する問題(B問題)の対応も	3	・単元テストがやCRTで全国平均を超えているので、この調子で指導を進めてほしい。 ・教科によっては、学年間の差が大きいものもあるが、結果、原因等の分析をしっかり行い、結果を反映させてほしい。また、引継ぎにおいても、その点を生かしていただきたい。
	④ 学びの構え(学習の五か条、チャイム、姿勢・返事・聴く・発表)を身に付けさせ、一人1授業の授業公開におけるアンケートで定着率が80%以上となる。	3	・アンケートでの定着率は87%であったが、姿勢や発表に指導が必要。学びの構えや立腰指導についてはだいたい定着してきたが、学年・学級による取組の差がみられるので、ミドルリーダーや担当を活かし、TEAM広瀬として、一つ一つの徹底を図っている。	3	・子どもたち同士で、発言を聞いたり、意見を言い合ったりする中で、自分の意見を真剣に聞いてほしい、そのためには人の話も真剣に聞くこととする意識を育ててほしい。 ・低学年の「ベタ、ピン、グー」の合言葉はどのでもよい。 ・定着率は11月より4ポイント上昇しているのは素晴らしい。より以上に目を据えて指導していただいたことを嬉しく思う。
(2) 心の教育の充実	① 夢や希望を抱かせるとともに、生徒指導の3機能を生かした指導と教育相談を充実させ、児童の学校生活満足度を90%以上にする。	3	・毎月の児童アンケートを充実させ、児童の状況をしっかりと把握するようにする。 児童の学校生活満足度は90%の児童が「楽しく過ごせている。」と答えている。さらに学校生活満足度を上げてきた。また、教育相談で残り10%の把握と対応している。 教育相談は、年3回、各学級において担任が児童全員と話す時間を確保している。	3	・中学校では職場体験や地域ボランティアもあるので、少学校でも、よりキャリア教育の充実を図ることで、夢や希望、目標がもてるようになってくるのではなかろうか。 ・児童一人一人との教育相談の時間が確保されているのはよいことである。
	② 読書活動を充実させ、ファミリー読書を推進し、各学年の目標達成率を80%以上とする。 低学年～35冊、中学年～25冊、高学年～15冊(学期ごとの目標)	4	・読書に関する呼びかけ、図書便りの発行、親子読書を実施した。これまでの学年別貸出冊数の目標達成率は、1年133%、2年88%、3年131%、4年97%、5年113%、6年146%となった。既に目標を達している学年が多い。図書館便り、参観日懇談でもファミリー読書について啓発した。	4	・素晴らしい実績数値だと思う。 ・学年別の差が気になる。課題が見えているのか確認してほしい。 ・1年生の貸出が多いのは、今後の見通しが明るいと思える。学習の基本はやはり、読解力だと考える。読書関係のアンケートはプラス傾向でいい。
	③ 児童の主体性を生かした教育活動を展開し、集会活動、学校行事などにおいて存在感や達成感を感じる子の割合を80%以上にする。	4	・児童の意識評価では、95%となった。児童集会では、委員会活動の様子を発表し、活動の意義を自覚させるとともに、全校児童にも活動に参加、協力しようとする意識を高めることができた。各学年の学年集会の計画や運営を児童が行うことにより、存在感・達成感を高めることができた。	4	・6年生には、中学生になる準備として、自分で考えて行動する経験をする良い機会である。 ・集会の場にも何らかに参加しているが、静かに行動が出来るといういつも感心している。
	④ ボランティア活動や無言清掃の徹底など、奉仕・体験活動を推進し、進んで奉仕活動を行っているという自己評価率が80%以上になる。 ・あいさつ運動を推進し、学年に応じた礼節を身に付け、元気なあいさつができる子どもの自己評価を80%以上にする。	3	・アンケートではボランティアに積極的に取り組んでいるが76%、無言清掃が88%、係、当番、委員会活動が95%で1学期より増えた。全体的に広げてきた。 清掃指導週間をはじめ、高学年の朝のさわやかボランティア活動や毎日の指導を充実させてきた ・アンケートでは90%であったが、2学期よりあいさつ運動が盛んになり、児童会でもあいさつ運動をとりあげ、全校的な取組に広がってきている。2月は5,6年生を主体としたあいさつ運動も行った。	3	・無言清掃のアンケート数値がかなり上がっており、子どもたちも実感してきたのではないかと、小中一貫のよい取組である。 ボランティア活動については、周囲の声かけや感謝の言葉が大切な原動力になると思う。 ・目標をクリアしており、周囲からの声も「良い」とのコメントが多い。 下校の時、見守りをしている人へ、自分から挨拶ができるともつとよい。見守りをする人が声をかけても知らんぷりする児童もまだ多い。 ・挨拶は出来ているが、より気持ちよいあいさつ、元気にあいさつ等目標を変えてみるのもいいのではないかと。
(3) 生命尊重と健康管理能力の向上	① 体位・体力の向上を目指して体育学習と日常的な運動の充実を図り、体力テストにおいて全国標準値や前年度数値を超える種目を増やしていく。	3	・今年度は、ボール投げがよい結果を出した。昨年度行ったバドミントンの効果が出ていた。全体的には、持久力と柔軟性は全国標準を上回っている学年が多い。弱かった握力向上のため、昼休みに体育委員会で、遊びによる取組を行った。	3	・子ども自身が自分に足りない体力を向上させるにはどうすればよいかを考え、それを実行し、結果を確認できるといったPDCAサイクルの学習の場にもなればよい。 ・来年度の握力向上に結果が出るとうれしい。 ・体力テストの結果から、種目により県平均より低いものや自立つが、対策はをしっかりと考え、次年度についてほしい。
	② 危険予測トレーニングを学期に1回、計画的に実施し、事故の未然防止能力を高める。 ・歯の大切さについての啓発を強化し、歯の治療率70%以上をめざす。	3	・4月に自転車事故があり、佐土原交番の協力を得て、警察官による自転車の乗り方を中心とした朝会を行った。その後の事故はない。また、校内外に潜む危険とそれを予測した行動についての指導を行った。今後も危険予測回避行動や避難訓練等と合わせて指導を充実させていく。 ・数回の治療報告書送付、個別面談での治療報告、学校保健委員会において学年の強化取組とする等の取組を行った。これまでの治療率69%で、年度内には70%を超えようである。しかし、さらに継続した取組が必要である。	3	・何が、なぜ危険なのかと実践で教えることは大事です。 ・常に危険とは隣り合わせであることを伝え、事故がないよう努めていただきたい。 ・昨年の評価より上がっているのは、取組に光が見えてきたのではないかと。今後も期待したい。
	③ 全学級での食育授業の実施など、食育指導の充実を図るとともに、「お弁当の日」を設定し、取組状況を公表する。	3	・1学期に実施した学年もある。2学期に行う学年での校外学習とお別れ遠足で実施した。お別れ遠足を集大成としている。今年度は外部講師と連携できなかったのが残念である。	3	・「お弁当の日」各家庭でどんな対応をされているのかわかるように、親子の情報交換の場があるとうれしい。 ・お弁当づくりの結果報告を提示されたことも他の児童にもいい参考になると思う。
(4) 全職員で協働しながら取り組む特別支援教育	① 就学指導委員会やケース会議の充実を図るとともに、教師の満足度80%以上を目指す。	3	・今年度より、毎月校内委員会を実施し、より細やかな実態把握や、支援体制の構築を図っている。 また、年間指導計画にしたがって、研修会を実施している。今後さらに研修会の充実を図り、特別支援教育への理解が深まるように努めていく。	3	・特別支援教育を必要としている児童が年々増加していると聞くと、毎月会議で共通理解を図ったり、支援を行ったりしていることはありがたい。
	② 特別支援学級の理解はもとより、通常学級で支援の必要な児童を把握するなどの、情報交換を定期的に行う。→アセスメントシートの分析と活用<6月実施>	3	・必要に応じて、就学指導委員会やケース会議を実施している。今後さらに、支援体制づくりにも、組織としての対応に努めている。	3	・アセスメントシートで実態把握や分析を指導や支援に生かしていると聞いて、よく配慮してらっしゃると思う。引継等も丁寧に行ってもらいたい。
	③ 「個別の支援計画」作成を推進し、児童の満足度80%を目指す。	3	・「個別の支援計画」の作成して活用していくことにより、児童の満足度を高めた。特に、児童だけでなく、保護者と連携し、より児童に寄り添えるようにしてきた。	3	・支援児童それぞれのゴールがあって、素晴らしい取組だ。